

## 平成 26 年 4 月の解説（週間天気予報）

### 【4 月の天候状況】

上旬は、高気圧と低気圧が数日の周期で通過しました。4 日から 5 日にかけて、低気圧が急速に発達しながら三陸沖を北東に進み、北日本太平洋側を中心に大雪や大雨となりました。低気圧の通過後は日本付近に強い寒気が流れ込んだため、北日本から西日本にかけて、気温が平年を下回りました。旬降水量は、北日本太平洋側でかなり多く、北日本日本海側で多くなりました。一方、沖縄・奄美でかなり少なく、西日本で少なくなりました。

中旬は、高気圧と低気圧が交互に通過しましたが、低気圧による降水は西日本が中心で、その他の地域では高気圧に覆われて晴れる日が多くなりました。旬降水量は、北日本、東日本日本海側、沖縄・奄美でかなり少なく、東日本太平洋側で少なくなりました。

下旬は、21 日から 22 日にかけて低気圧が本州南岸を進み、東・西日本の太平洋側を中心に雨となりました。その後は東日本から西日本にかけて広く高気圧に覆われ、暖かい空気が流れ込んだ北日本を中心に気温がかなり高くなりました。28 日から 30 日にかけては低気圧や前線が西日本から東日本にかけてゆっくり東進し、東・西日本太平洋側を中心に大雨となり、降り始めからの降水量が 300 ミリを超えた地点がありました。旬降水量は、北日本日本海側でかなり少なくなった一方、東日本太平洋側で多くなりました。

月平均気温は、沖縄・奄美で平年より低くなりました。月降水量は、北日本日本海側と沖縄・奄美でかなり少なく、北日本太平洋側、東日本日本海側、西日本で少なくなり、6 地点で 4 月の月降水量が少ない方からの 1 位を更新しました。月間日照時間は、北日本、東日本日本海側でかなり多く、東日本太平洋側、沖縄・奄美で多くなり、35 地点で 4 月の月間日照時間が多い方からの 1 位を更新しました。

### 【4 月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7 日目の平均）は、全国平均では例年値<sup>(注)</sup>に比べ 11 ポイント高い 81%でした。各地方の適中率は例年値に比べて、すべての地方で高くなり、特に北・東日本、四国、九州南部以南の 8 地方で 8～17 ポイント高くなりました。

最高気温（2～7 日目の平均）の予報誤差は、全国平均では例年値より 0.5℃小さい 2.3℃でした。各地方の予報誤差は、すべての地方で例年値より小さくなり、東北・北陸をはじめとした 5 地方で 0.5～1.1℃小さくなりました。最低気温（2～7 日目の平均）の予報誤差は、全国平均では例年値より 0.3℃小さい 1.9℃でした。各地方の予報誤差は、北海道地方をのぞくすべての地方で例年値より小さくなり、特に東海・近畿・沖縄の 3 地方で 0.5～0.7℃小さくなりました。

<sup>(注)</sup> 例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

### 【6 月の週間天気予報の利用にあたって】

6 月は、日本の南海上に停滞していた梅雨前線が次第に北上し、平年では上旬から中旬ごろにかけて西日本・東日本および東北地方で梅雨入りとなり、曇りや雨の日が多くなります。また、オホーツク海高気圧が強まると、梅雨前線は南下し、関東地方以北の太平洋側を中心に冷たい北東の風が吹き込むため気温が低くなります。このような状態が長期間続くと、日照不足や低温によって農作物の生育不良などが起こります。

週間天気予報からわかる向こう一週間の天気や気温の傾向を、農作物管理等の参考に活用してください。